粟津校下のまいぶんマニュアル

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！

地形の説明　粟津校下の遺跡

★☆粟津校下ってこんなところ！☆★

地形／粟津校下のおもな地形は、日本海側の平地をのぞむ小高い**丘陵**です。ここは古墳時代後期から平安時代にかけて、**製陶**（せいとう）（やきものづくり）や**製鉄**（せいてつ）（鉄づくり）が盛んだった大工業地帯です。

戸津窯跡群

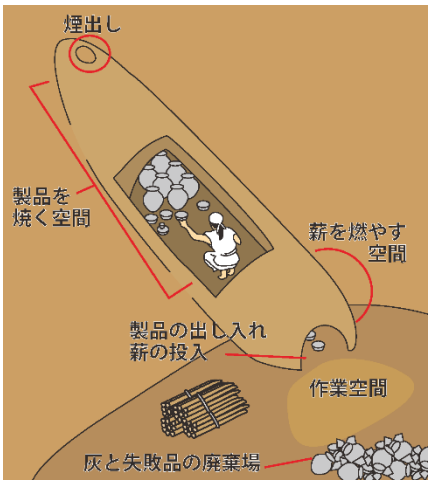
年表に登場する遺跡／**南加賀製陶遺跡群**（みなみかがせいとう）（粟津校下ほか那谷・矢田野校下）

おもな時代は**古墳時代～平安時代**。

教科書の小単元は**「縄文のむらから古墳のくにへ」～「貴族のくらし」**。

ポイント①＝古墳時代になると、**渡来人**（とらいじん）がもたらした**のぼり窯**（がま）で焼く新しい土器（**須恵器**（すえき））がつくられるようになりました。

ポイント②＝小松市南東部の丘陵で**２００基以上**の窯が築かれました。中でも粟津校下の**戸津窯跡群**（とづ）では、※水煙（すいえん）や瓦、すずりなどうつわ以外のものも多くつくられました。



須恵器窯のイメージ

※製陶については普及冊子「こまつ原始・古代のものづくり」をご覧ください。▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶

WEB 版ものづくり冊子

窯で焼かれたもの（※水煙＝塔のてっぺんを飾る部品）

年表未登場の重要な遺跡／**大谷山貝塚**（おおたにやまかいづか）（津波倉町）

おもな時代は**縄文時代**。

ポイント＝小松大谷高校の敷地内にあった**貝塚**（かいづか）。

貝殻や**動物の骨**、**縄文土器**がたくさん見つかりました。貝殻は汽水域にすむ**シジミ**が中心でした。当時、海面の上昇によって内陸まで海水が入りこんでいたため、川から流れる淡水と混ざりあう場所で貝をとっていました。

貝塚から見つかったシジミの貝殻